

功績・功労をたたえて

京都府農林水産業功労者表彰

もりがき つよし
森垣 剛さん



森垣剛さん（金屋）が、多年にわたり京都府内の農林水産業および農山漁村の振興と発展に功労のあった個人または団体を表彰する「京都府農林水産業功労者表彰」を受賞されました。

森垣さんは認定農業者として水稻、えびいも、豆類など特産品の栽培を行うとともに、機械化による規模拡大を進め町内の農地管理に長年尽力されているほか、農業委員としても農地の適正利用に努められるなど、農業の振興と発展に貢献されました。この度の受賞、まことにめでとうございます。

京都府若手農林漁業者表彰

やまがき としひこ かよこ
山崎 俊彦さん・香葉子さん



山崎俊彦さんと香葉子さん（岩屋）が、農林水産業の経営改善に意欲的に取り組む39歳以下の若者を表彰する「京都府若手農林漁業者表彰」を受賞されました。

山崎さん夫妻は水稻や季節野菜を中心に農業技術向上と機械化で経営改善に取り組む中、白ネギ栽培において顕著な実績を上げ、また、地域で貴重な担い手として農業振興を牽引するなど、若手農業者のリーダーとして期待されています。この度の受賞、まことにめでとうございます。

自分ごと化会議

私に関係ある？ある！

自分ごととして 公共交通を考える

初開催「与謝野町自分ごと化会議」

企画財政課 ☎ 43-9015



公共交通について議論した自分ごと化会議の様子
(1月13日/野田川わーくばる)

与謝野町では、行政が抱える課題を共有し考える「与謝野町自分ごと化会議（以下、会議）」を、政策シンクタンク一般社団法人構想日本と連携し、3回にわたり開催しました。

「公共交通」をテーマにした会議には、性別や年齢、お住いの地域が異なるよう無作為に抽出した16歳以上の住民の方に案内を送付し、10代から80代までの26人が参加。

1回目（令和6年12月8日）には、よさの乗合交通や丹海バス路線などの公共交通事業に関する「事務事業評価」を傍聴し、利用者の減少や運転手不足などの現状について理解を深め、2回目（同年12月22日）では、ワークショップ形式で課題を出し合いました。3回目（1月13日）では、よさの乗合交通の乗車体験開催の提案や利用者へ寄り添った予約システムの運



認知症になっても安心して暮らせるまちへ

認知症キャラバン・メイト養成研修 園 地域包括支援センター（福祉課内） ☎ 43-9021

与謝野町では、認知症になっても安心して地域で暮らせるまちづくりをめざすために、認知症の理解やかかわり方を学び認知症の方や家族への応援者・支援者となる「認知症サポーター」の養成講座を、小・中学校や一般住民向けに実施しています。令和6年12月14日には元気館において、その講師役を務めるキャラバン・メイトを養成する研修を実施しました。

また、与謝野町認知症地域支援推進員の桑原さわ江さんと坂田敦子さんから、チームオレンジ※2の説明のほか、実際のサポーター養成講座を企画立案するグループワークを実施。研修

- 認知症施策推進基本計画の4つの重点目標（※1）
- ① 国民一人ひとりが「新しい認知症観」を理解していること
 - ② 認知症の方の生活においてその意思などが尊重されていること
 - ③ 認知症の方・家族などが、ほかの方々と支え合いながら地域で安心して暮らすことができること
 - ④ 国民が認知症に関する新たな知見や技術を活用できること

■ チームオレンジ（※2）

近隣の認知症サポーターがチームを組み、認知症の方や家族に対する生活面の早期からの支援などを行う取り組み。認知症の方もメンバーとして参加します。認知症サポーターが新たに力をふるう場として期待されています。



グループワークの結果を発表する参加者の皆さん

を修了した21人が新たにキャラバン・メイトとして登録され、今後、認知症サポーター養成講座の講師として活躍していただきます。

認知症を「知る・学ぶ」ことで見方やかかわり方が変わります。子どもから働き盛り、高齢の方まで、まずは知ることから始めてみませんか？ 私たちキャラバンメイトが伺います。ともに認知症になっても安心して地域で暮らせるまちをつくっていきましょう。

施設の閉館・閉鎖のお知らせ

園 産業観光課 ☎ 43-9012

災害や老朽化などの影響により、次の3施設について昨年12月末をもって閉館（閉鎖）いたしました。皆さまには長い間、ご利用いただきありがとうございました。なお、ご不明な点がございましたらお問い合わせください。

■ 閉館（閉鎖）する施設

- 産業創出交流センター
- 平林キャンプ場
- 池ヶ成キャンプ場